

平成 24 年 12 月 18 日 00097 号

編集者:佐藤 寿 春

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-61-4804 Fax:0157-23-0581

satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

北見武道通信

ニュースレター【事務局情報】連載【週刊氷川丸】⑮氷川丸 最後の航海日誌(最終回)

迂闊にも漫画ジパング(ジパング全 43 巻講談社)を見て、柔道の創始者、嘉納治五郎師範の終焉の地、「氷川丸」が現存していることを知り、驚きとともに調べて行くほどに、氷川丸は歴史のだいじな目撃者であり、日本の激動時代を黙々とひたすら奔走する姿が視えてきました。

特別企画として【週刊氷川丸】を 15 回に亘りお伝えし、最終回を迎えることができ感慨深いものがあります。連載の最後に、氷川丸 水谷勝二船長が書き記したであろう「氷川丸最後の航海日誌」を紹介して完結と致します。

17th .Oct.1960 2400:Closed the Voyage for stopping her sea service.(1960.10.17. [彼女は、この航海で海のサービスを終える](#))

「昭和 5 年建造より昭和 35 年の引退に至るまで、戦前・戦中・戦後の 30 年間を通して約 9 万人が氷川丸の人となった。そのうち、戦場に傷付きあるいは病を得た傷病兵約 3 万人余、戦後南の島に取り残され飢餓と病にあった復員兵約 2 万人、外地で病を得た一般邦人約 8000 人と、実に約 6 万人が病院船・氷川丸によって内地に帰還を果たしたのであった。神戸より生まれ故郷・横浜に帰る氷川丸に別れを惜しみ涙を流した人々、あの惜別の喚声と涙は、かつて病院船であった氷川丸と、当時乗組員だった人たちへの形なきナイチンゲール賞だったのかも知れない。華やかな時代の氷川丸ゆかりのある人たちの見送りだけではなかったのである。戦前には世界第三位の船腹保有量を誇った日本商船隊は、太平洋戦争により壊滅的な打撃を受け、2568 隻の商船(100 総トン以上)と 6 万数千人の商船・漁船船員が船と運命をともにした。終戦時には外航船として使用に耐える大型貨客船は氷川丸を含め 3~4 隻しか残らなかった。氷川丸はその生き残った数少ない船として重責を果たすべく戦後を、そして昭和という時代を走り続けたのである。もとより、これら氷川丸が刻んだ数々の栄光の歴史は、戦前・戦中・戦後を通して、氷川丸に携わったすべての人々によって作られたものである。そして、それは日本海軍の歴史であると同時に、昭和という時代の歴史でもあった。氷川丸の歴史を通して激動の昭和という時代を振り返って見ることは、決して無意味ではない。今日も横浜の港では氷川丸の汽笛が正午を告げている。」[氷川丸太平洋横断の記録]・戦前 73 航海：乗客約 1 万人・戦前 1

航海：通信省引揚船、引揚外国人 216 人、引揚邦人 364 人・戦後 3 航海：昭和 25 年不定期・戦後 2 航海：昭和 26 年ニューヨーク不定期・戦後 1 航海：昭和 27 年準客船・戦後 1 航海：昭和 28 年不定期・戦後 46 航海昭和 28 年 7 月 28 復活～昭和 35 年 10 月 16 日揚切り、乗客 15,800 人、合計 127 航海、太平洋横断 254 回 【完結】

[武道通信「氷川丸」参考資料]・北日本汽船株式会社船舶歴史・

氷川丸 70 年の航跡 HP・日本郵船歴史博物館・日本郵船氷川丸 HP・氷川丸の生涯 竹野弘之 著(日本郵船歴史博物館顧問)・ガイドブック 日本郵船歴史博物館・大日本帝國海軍特設艦船 DATA BASE HP・20 世紀時刻表歴史館 HP・日本船舶画報(船舶写真)・日本海軍艦艇写真集・トラック島海軍戦記・戦没船データベース HP・氷川丸とその時代・ジパング ZIPANG モーニング KC 講談社

